

【学校教育目標】

心豊かに 自ら考え行動できる児童の育成

【めざす児童像】 自ら考え行動できる子 仲よく助け合う子 体をきたえ元気な子
～かしこく・やさしく・元気よく～

【本校の課題】

- 男子は、上体起こしと反復横とびの数値が低く、女子は長座体前屈の値が県平均を下回っている。
- 自分から進んで体を動かそうとする児童と、そうでない児童に大きく二極化されている。
- 全学年を通して、運動習慣が身につけていない児童が多く、運動に対する積極性が低い。

【現状】

朝から運動場に出て元気よく遊ぶ姿や、休み時間にも積極的に外へ出て行く様子が多く見られる。その一方で教室に多く残っている児童もいて、運動に対する意識の二極化が進んでいると感じられる。授業に対しては意欲的に取り組み、体育の時間を楽しみにしている児童が多いが、授業の内容がうまくできずに運動に対する意欲を失っている児童もいる。

そこで年間指導計画を工夫し、学校全体での系統性を図ってきた。ルールの工夫により、どの児童も積極的に運動に取り組むようになり、運動従事時間が増えてきている。また、体力づくりの成果が新体力テストの成績向上も顕著に現れており、5年生の各項目での得点が全国平均を下回っている数が18項目中4項目と減少した。

今年度も運営方法を改善しながらこれらの取り組みを継続して行っていきたい。

【取組み】



年間計画の工夫

運動機会を増やすために、授業での運動量を確保する。そのために、体育で使用する環境・場を確保し、十分な運動ができる時間を保障した年間計画を実施している。

既存のルールで行うのではなく、経験の有無に関係なく楽しめるルールを考え、運動への積極性を高めたい。



陸上・水泳クラブの実施

春と秋の2回、陸上クラブを実施して、自己ベストを更新する喜びを味わうだけでなく、体力づくりのために参加できるように練習メニューを工夫する。

水泳クラブでは、25mを泳ぐことを目標にして、水泳が苦手な児童を重点的に指導できるような体制づくりや共通理解を図り、指導していきたい。



体力づくりの工夫

8の字大縄3分間チャレンジを各学級でチームを作り、全校生で体力づくりの時間に取り組む。また、体育委員会主催で、遊具を活用した体力づくり「みなみっ子SASUKE」と「ナフトビチャレンジ」を秋から冬に行う。

多様な動きを経験することによって運動に対する感覚を身につけたさせい。

【目標】

- 体育の授業の運動量を増やし、体育が好きで運動に積極的に取り組む児童を育成する。
- ルールや場を工夫し、苦手な種目でも楽しみながら運動に参加する児童を育成する。
- 新体力テストの合計記録のさらなるレベルアップを目指す。